

第2期広島市立大学塾活動報告【6月19日】

国際学部国際学科2年

齊藤 秀太

6月19日（水）、広島市立大学塾生は、今年の4月に新しくなった平和記念資料館で活動しました。今回は特別に、広島平和記念資料館副館長の加藤秀一さんにより解説をしていただき、普段より詳しく資料を見て回ることができました。資料を見た後には、広島市立大学の先生方、塾生、資料館副館長の加藤さんと意見、感想を述べる時間もありました。

まず、リニューアルした資料館の印象は、リニューアル前の資料館と比べて、「恐怖」という印象は薄まっていました。その一方で、今まで以上に客観的に資料が展示されてあったり、最新技術を取り入れていたり、より多角的にリアルに当時をイメージしやすくなっているという印象も受けました。また、客観的な展示の仕方をされている分、想像力が必要とされる面もあるのではと感じる部分もありました。

次に、私、個人的には、原爆の被害を受けた方の遺品に加えて、その方自身のストーリーが書かれていた展示方法が印象に残りました。そして、その中で特に印象に残った展示品は、資料館で有名な「焦げた弁当箱」の展示です。今までにも何回も見たことはあったのですが、遺品にまつわるエピソードを新しく知って、「焦げた弁当箱」に対するイメージがガラッと変わりました。

「焦げた弁当箱」の持ち主は、広島県立広島第二中学校の生徒であり、私の母校、広島観音高校の前身の生徒でした。高校時代、私は原爆により、広島二中の1年生が全滅したという話を度々、平和学習を通して聴きました。高校の頃の平和学習では、原爆の悲惨さ、威力を知ること、想像することはある程度できましたが、一人一人の広島二中の生徒をイメージすることは、なかなかできませんでした。しかし、今回の資料館の展示では原爆の被害者（広島二中の生徒）のことについて書いてあり、一人一人のことを想像しながら資料を見ることができました。

最後に、塾生各々、平和記念資料館で展示品を見て、気がついたこと感じたことがあったと思うので、そこからさらに平和学習を深めていけるようにします。

